学校医会ニュース

楠 醫 会

第335号　平成18年6月1日
発行所　京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601－1 こどもみらい館 2階
ＴＥＬ（075）256-0351
ＦＡＸ（075）241-3568
発行人　長 村 吉 朗

第57回　指定都市学校保健協議会に参加して

会長　長村吉朗

5月14日川崎市において、第57回指定都市学校保健協議会が川崎市学校保健会及び川崎市教育委員会の主催で開催され、学校医会より私と奥村・平井両副会長、林専務理事、竹内常任理事の5名と星谷耳鼻科医会理事の合計6名が京都より参加いたしました。私は全体協議及び記念講演と第4分科会「地域保健」の概要につき報告をいたします。その他の分科会の内容につきましては他の記事をお読みください。

指定都市学校保健協議会は昨年まで十四大都市学校保健協議会、一昨年は十三大都市・・と呼ばれていた会です。一昨年にさいたま市、昨年には静岡市、今回の全体協議会において堺市の加盟が承認され、今回は前例にならいますと十五大都市学校保健協議会と改名されるところが、今後も同様の事態が発生することが想定されるため指定都市学校保健協議会と改名されたものです。これにより今後は札幌、仙台、さいたま、千葉、川崎、横浜、静岡、名古屋、京都、大阪、堺、神戸、広島、北九州、福岡の各政令指定都市が加盟都市となります。来年度の開催都市は北九州市で5月13日と決定されました。その後は広島、千葉、大阪と続き平成23年には京都市において開催される予定となっております。

記念講演は慶応義塾大学病院小児科外来医長　渡辺久子氏による「こどものこころ～今の社会に生きる悩み～」でした。内容に関しては予定時間を半時間も超過するとぎれることの無い熱演でしたが、居眠りをしていたのでもないのですが誠に申し訳無いことにお伝えするポイントとなるものは記憶に残っておりません。しかしその後の記念事業の東京交響楽団のメンバーによる弦楽四重奏は、会場のミューザ川崎シンフォニーホールが音楽演奏を目的に設計され、ステージを取り囲むように後方まで観客席が配置された、すり鉢状のこぢんまりとした会場のため、すぐ近くで奏でられる美しい音色に魅了されました。

第4分科会の口頭提言では「保護者・学校医・教職員を結ぶ学校保健委員会の開催」さいたま市　養護教諭　辻野智香氏、「生命って・・・その命守りたい！」横浜市　教諭　山口昭代氏、「子供を見つめて」大阪市　学校薬剤師　西川節子氏、「ピア・カウンセリングによるピアサポートの取り組み」北九州市　教諭　大石光宏氏、の4題が報告されました。これらに付き少し補足いたしますと、ピア・カウンセリングとはピア（peer）は仲間のことで同じ立場や経験を共有するものの間で行う情報交換のことのようです。今年度はこれまで心の問題が多く取り上げられておりましたが、昨今の学校における不幸な事件の多発のためか命や安全のテーマが他の会場をでも多く協議されているように感じられました。紙上提言では「生活習慣病予防対策に関する調査研究」広島市　学校医　永田忠氏、「薬物から青少年を守る地域のネットワーク」福岡市　学校薬剤師　坂田博子氏、「学校環境検査におけるダニ調査」川崎市学校薬剤師会　鈴木耕三氏の3題がありました。

これらの資料は学校医会事務局にございますので必要な先生方は遠慮なくご連絡下さい。

第57回　指定都市学校保健協議会

～ 第１分科会　健康教育 ～

専務理事　　林　　鐘　声

竹内理事と私は、この分科会に出席しました。“子どもの生きる力を育む健康教育の推進”を主題として口頭提言４題、紙上提言３題が協議の対象となっていましたが、当日は下記の口頭提言のみとり上げられましたので、それについて報告します。

(1)	養護教諭が行うストレスマネジメント教育	千葉市立草野小学校 養護教諭　榊　原　真由美
(2)	学校薬剤師が話す「くすりのお話」	名古屋市立学校 学校薬剤師　山　口　一　丸
(3)	健やかな心と体を創造する子どもの育成をめざして ―― 問題解決能力を高める指導法の工夫 ――	福岡市立塩原小学校 教　　諭　園　田　一　浩
(4)	養護教諭の特性を活かして ～「総合的な学習の時間」にどう関わっていけるか ～	川崎市立中学校教育研究会 養護部会　森　本　明　子

助言者は文科省の保健体育審議会答申に携ってきた経歴をもつ野津有司（筑波大学大学院人間総合科学研究科学校教育学専攻）氏でした。健康教育は第一次予防であって、治療の領域に入ってはいけないこと、熱心さの余りにその範囲を逸脱し子ども、教師、保護者に齟齬をきたすようでは本末転倒であると指摘したのを始め、今回の提言内容について、その留意すべき点を極めて明快に主張されたのが印象に残りました。私の理解した内で列記しておきます。

小学生の保健指導にはストレスという表現はなく“不安と心配”という言葉に言い換えられているそうです。ストレスというと克服すべきもの、回避すべきものと位置付けられ易く（実際、この提言もそれを主題としたものでした）、ストレスが本来持っている心の成長発達に不可欠という観点が見逃されることを嫌ったためと説明していました。私も、“みんな悩んで大きくなった”という視点が欠けていると思いながら提言をきいていましたので、合点がいったものでした。

⑵については、薬の教育はこれからの重要な課題であること、薬物乱用の授業があって、その後に薬の正しい知識についての授業が高１～２年に用意されているのは、教育プログラムとしては順番が逆になっているとの指摘がありました。今後は単発的なものではなく、アルコールやタバコの問題も含めて系統的な授業を組むことになってくることでしょう。

⑶指導法の工夫として、生徒たちに運動課題をそれぞれ決めさせ、運動する時間帯を継続的に作ってそれに取り組ませたことや、生活習慣病の勉強をチームでさせたことなど、健康教育を身近なものに自覚させる方法として、極めて実践的であるとの指摘でした。

⑷については、総合的な学習の時間は、各教科の学習がしっかりと出来てこそ活用できるのであり、総合的な学習の時間の取り組みが突出して、各教科の授業が疎かとなっている学校のあることには苦言を呈していました。この提言は健康教育はまさに様々な教科の統合した内容をもっていることから総合的な学習の時間にこそ活用できる授業であることを示す興味ある発表でした。

健康教育に関連して、指定都市、地方中核都市、小都市での性の逸脱行為、喫煙、飲酒、薬物乱用などのデーターが示され、地方中核都市の子ども達の乱れが注目されるとの報告が併せてありました。都市の大きさで切り取っても違いが見えてくるようですが、京都市内で限ってみても地区によっては随分と事情の違いがある筈です。そのようなデーターを校医にも示して頂けたら校医はより学校、生徒の問題を身近に感じとることができる筈です。健康教育というと校医は講演を依頼されることが多いと思います。今回、校医の活動を主題とする発表はなかったのですが、学校現場に年に１回でも入って、子ども達、教師と一緒になって話し合う機会をもつ取り組みもあってよいかとも考えました。

第57回　指定都市学校保健協議会

～ 第２分科会　「保健管理」の会場は ～

福西小　　奥　村　正　治

「健やかな成長を目指すための保健管理のあり方」を主題として、口頭提言、紙上提言、それぞれ４題ずつが、第２分科会で行なわれた。

“食生活における自己管理能力を育てる試み”

“歯並びと顎関節に関する無料相談会の開催”

血糖コントロール、学校でも血糖値の測定を２回行なう、学校行事（運動会、遠足）等にも参加の方向でたずさわる等々の目標から、担任や、養護教諭のみが、児童との関係を保つのではなく、一校の全職員が、患児の病気の事を知り、特に低血糖に到った